

会議録要旨

(1) 会議の名称	第1回 越前市中心市街地活性化基本計画策定委員会
(2) 開催日時	平成27年5月12日（火曜日）午後7時～午後9時
(3) 開催場所	越前市生涯学習センター 市民ホール2階 第3会議室
(4) 出席委員氏名	野嶋委員長、金田副委員長、西藤委員、黒田委員、山口委員、村田委員、藤谷委員、清水委員、小形委員、坂口委員、梅田委員、能勢委員、石井委員、河端委員、長田委員、寶田委員、田中委員
(5) 欠席委員氏名	内藤委員
(6) 出席所管課職員職氏名	建設部 今村部長、鎌谷理事、三田村政策幹、都市計画課 平野課長、江端主幹、中谷主幹、石本主査
(7) 会議議題	策定体制、策定スケジュール 上位関連計画におけるまちづくりの方向性 中心市街地活性化基本計画改定の経緯 中心市街地の現状分析 これまでの取組み成果と検証
(8) 傍聴者の数	4人
(9) 会議資料の名称	資料1 策定体制 資料2 策定スケジュール 資料3 第1回策定委員会資料 資料編（中心市街地関連データ）
(10) 会議の内容の要旨	<p>1. 委員長等選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本策定委員会の委員長に野嶋委員、副委員長に金田委員を選出した。 <p>2. 委員からの主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いて買い物が楽しめる環境、若者が住みやすい環境、郊外よりもまちなかへ家を建てようというまちづくりを進めて欲しい。 ・人口減少が進展する中、高齢者が増え、若者は少なくなっている。未婚者も多く、人を結び付けるような政策が必要である。 ・まちなかの産業の移り変わりを受け止め、考え直す必要がある。 ・まちなかの空き家対策も重要である。 ・蔵の辻における「壺の市」等の開催により、近所の高齢者も参加するようになった。居場所を求める高齢者が多く、そのような方々が憩える場所が必要である。 ・子どもたちも外出しなくなった。子どもたちの遊び場が少ないことは残念である。 ・蔵の辻やタンス町など素晴らしい街並みがある。駅を降りた瞬間から、越前市の趣が伝えられることを考えていきたい。 ・人が住んでこそその活性化である。個人住宅を増やし、子どもの声が聞こえるまちづくりを進める必要がある。 ・中心市街地での活動の経済波及効果を念頭に置いた上で、中心市街地から市全体への活性化を狙っていくことが重要である。

- ・越前市も京都と同じ様に、歩行者優先のまちづくりを考えてはどうか。
- ・中心市街地には駅があり、近くには日野川も村国山もあり、非常に恵まれた立地環境である。これらをセットで考え、世界に発信するぐらいの意気込みがあって欲しい。
- ・武生天神のイベント開催中、まちなかプラザの来客数が2倍以上になった。一つ一つの素材を見直して企画すれば人は来るという実証ができた。
- ・まちづくりの主役は住民である。まちづくり会社の仕事は住民の思いを形にすることである。
- ・観光、歴史、文化をどう中心市街地に活かしていくかが課題である。
- ・元気な高齢者を若者とどう交わせるか、活性化につなげるか。福祉を中心としたまちづくりを進めるべきである。
- ・越前武生駅や北府駅を拠点にして、まちなか活性化につなげていきたい。
- ・まちなかは権利関係も複雑だが、所有者や利害関係者の意識を変えることが難しい。地権者も高齢化して、現実的に融資が受けられないという状況にある。
- ・中心市街地をどうするか、グランドデザインがない。
- ・1件でも2件でも住宅建設の成功例が増えれば、まわりの意識も変わっていく。
- ・一番の事業は本庁舎の建て替えであり、まちのリノベーションへの影響も大きい。
- ・まちの風格をいかに磨きあげ、計画に組み込めるかを考えていきたい。

3. 委員長総括

- ・若者から高齢者まで、中心市街地を住んで楽しいまちにするためには、リノベーションを含めた魅力的な住宅の供給や新しい住宅開発など、積極的に形にしていくことが必要である。
- ・住むためには若い人には仕事が必要であり、高齢者の居場所も必要である。また、福祉との連携、医療との連携も重要である。
- ・観光、歴史、文化面では、他所から来た人にいかに滞在していただくか、歩いていただくか。そのためには「魅力づくり」が大切で、その魅力は何なのかを整理し、事業として組み立てる必要がある。
- ・活性化のために具体的にどういう行動を取り、どういう開発をどこでやるのかという戦略計画を考え、それを基に議論を進める必要がある。

(11) その他

特になし